

忘年観劇ツアー

わらび劇場「舞子の蔵」へのご案内

秋も深まり、日一日と寒さが身にしみる季節となって参りました。いかがお過ごしでしょうか？

12月は上記の観劇ツアーをご案内いたします。主演を演じる阿部佐和子嬢、演じる前に県内の酒屋に出向き、酒蔵の実態を見聞し勉強したといわれております。すでに新聞紙上で評判になっており、連日の賑わいをみせております。演技に期待し、観劇後には、温泉に入って地ビールで会食（お料理、1ランク上を準備しました）。友達を誘って、またお揃いでご参加下さい。

記

- 1.日 時 平成 21年 12月 6日 (日) ホポロト・駅東口 8時30分 集合
- 2.行 先 仙北市 たざわこ芸術村 わらび劇場
- 3.行 程 秋田駅東口(8:45)～たざわこ芸術村(10:20)、観劇(10:30～12:20)
食事(12:30～13:30)、入浴(13:30～14:30)、芸術村発(15:00)～
秋田駅東口(16:30 頃着)
- 4.定 員 50名 (定員を超えた場合は抽選)
- 5.参加費 6,900円 (観劇料、食事、、保険等諸経費)
- 6.申し込み 往復ハガキに「12月のイベント参加希望」と書いて、住所、氏名、電話番号を記入して 11月17日(火)までお申し込み下さい。
申込者には追って参加の可否を通知します。
参加決定者には参加費納入のご案内と郵便振替用紙を送ります。
- 7.申込先 郵便番号 010-1412 秋田市御所野下堤5-1-1
(財)秋田県長寿社会振興財団(LL財団)
秋田シニアネットワーク事務局 電話018-829-2888

あらずじ 大正時代末頃の秋田。250年続く酒蔵の娘・加賀屋舞子は、東京に出て女優になることを夢見ていた。しかし、跡取りである兄の突然の死。舞子は婿養子を迎え家を継ぐ事を迫られる。家を飛び出した舞子は、幼い頃から可愛がってくれた先代の杜氏、音吉を訪ねた。音吉は「和醸良酒」を語る。家族、蔵で働く蔵人、米を作る小作人、たくさんの人たちの和が、美味しい酒を造る事を。舞子は自分の中で、何かが大きく動き始めるのを感じる。…時は動き、蔵は、舞子と夫の三郎が切り盛りし、杜氏は又造の代になっている。しかし、思う様な酒はできず、経営もままならない。若い蔵人で音吉の孫の幸吉は、新しい醸造方法の勉強を願い出る。舞子は幸吉の挑戦を応援する。そんなある年、蔵では腐造を出してしまう。駆けつけた舞子に「蔵は女人禁制です！」と又造が叫ぶ。だが舞子は「この蔵は、私が守ります。」と言い放つ。やがて戦争の足音が近づいて、時代の荒波は、舞子の蔵にも押し寄せ…。